



# からしだね

2019年10月号  
(553号)

キリストの受難 カトリック池田教会

主任：ノノイ・プラザ神父

住所：〒563-0041 池田市満寿美町9-26

TEL：072-751-2400 FAX：072-753-4624

URL(ホームページ)：<http://catholic-ikeda.sakura.ne.jp/church/index.htm>



## 本号の記事の主題など

「移住者だけのことではありません」

世界難民移住移動者の日、フランシスコ教皇

平和旬間行事「朗読会」を開催

ヨハネ・ボスコ馬場世明さんが終生誓願宣立

大人の日曜学校だより 7月28日

年間カレンダーに追加された行事予定など

日曜学校夏キャンプー「神様に愛されて」

ドレミの会 夏のバーベキュー

敬老の集いで元気な顔が揃いました

支援先紹介(その5) ハイチ友の会  
みんなの談話室

辻 輝子さんの笑顔

マリア・マグダレナ辻 輝子さんを偲んで

天国を目指す一番星、辻 輝子さんを悼む

南アフリカより

スマイル

映画「マリア」の鑑賞会

## 移住者だけのことではありません

第105回「世界難民移住移動者の日」 バチカンにて、フランシスコ教皇

親愛なる兄弟姉妹の皆さん、

信仰は、神の国が地上においてすでに神秘として存在すること<sup>(1)</sup>をわたしたちに確信させます。しかし残念ながらわたしたちは、神の国が今も妨害や反対勢力に直面していることを痛感しなければなりません。武力衝突や戦争がつねに人類を引き裂き、そのために不正義と差別が生じています。地域、あるいは世界規模での経済格差や社会格差を是正することも困難です。そして何よりも、もっとも貧しく恵まれない人々がこれらすべての代償を払っているのです。

経済的にもっとも繁栄している社会は、極端な個人主義に陥る傾向をその中で増大させています。その傾向は、功利的な考えと結びつき、メディアによって助長され、「無関心のグローバリゼーション」を生み出します。こうした状況の中では、移住者、難民、避難民、人身取引の被害者が、排除される側の代表的存在になっています。彼らは自分の立場から生じる苦難だけでなく、社会悪の根源とみなされるという否定的な評価も頻繁に負わされるからです。彼らに対するこうした態度は、このまま使い捨て文化をはびこらせるならば、道徳的退廃に直面することを知らせる警鐘です。事実、こうした道をたどるならば、身体的、精神的、社会的充足の基準に当てはまらない人は皆、取り残され、排除されるおそれがあります。

ですから、移住者と難民の存在は——弱い立場に置かれているすべての人と同様に——、キリスト者であり人間であるわたしたちにとって不可欠な側面、何不自由のない生活の中で眠っているおそれのあるその側面を取り戻すようにと、今もわたしたちを招いています。だからこそ、「移住者だけのことではないのです」。つまり、彼らに目を向けることにより、わたしたちは自分にも、すべての人にも目を向けるようになります。彼らを気づかうことにより、わたしたち皆が成長します。彼らに耳を傾けることにより、今はよく思われなくて隠したままにしているのかもしれない自分の一面を、ことばに表すようになるのです。

「安心しなさい。わたしだ。恐れることはない」(マタイ14:27)。これは移住者だけのことではなく、わたしたちの恐れにもかかわることです。現代の悪と醜さは、『他者』、見知らぬ人、社会の片隅に追いやられた人、外国人に対するわたしたちの恐怖心」に拍車をかけます。「このことは、保護と安

全とより良い未来を求めてわたしたちのもとを訪れ、扉をたたいている移住者や難民の前で、今日、とくに顕著に表れています。確かに、何の準備もなく出会うのですから、恐れるのは当然のことです」<sup>(2)</sup>。「疑ったり恐れたりすること自体が問題なのではありません。その疑いと恐れが、わたしたちを不寛容で閉鎖的な人にするほどに、わたしたちの考えと行動を左右し、おそらく——知らず知らずのうちに——人種差別主義者にさえしてしまうことが問題なのです。このように恐怖心は、他者という自分とは異なる人と出会う意欲も可能性も奪います。それは、主と出会う機会が奪われることなのです」<sup>(3)</sup>。「自分を愛してくれる人を愛したところで、あなたがたにどんな報いがあるのか。徴税人でも、同じことをしているではないか」(マタイ5:46)。これは移住者だけのことではなく、愛のわざにかかわることです。わたしたちは愛のわざを通して、自分の信仰を示します(ヤコブ2:18参照)。最高の愛のわざは、報いることも、おそらく感謝することさえもできない人に向けられるものです。「それは、わたしたちが社会として身に着けたいと思っている顔と、一人ひとりのいのちの価値にかかわることです。……人々の成長は、わたしたちの扉をたたいている人に心を動かされ、共感できるかどうかにかかっています。その人は、いのちを担保にして人を隷属させるすべての偽りの偶像の正体を、その視線によってあばき、打ち砕きます。その偶像が約束するのは、現実からも他者の苦しみからもかけ離れた、見せかけだけのほかない幸せです」<sup>(4)</sup>

「ところが、旅をしていたあるサマリア人は、そばに来ると、その人を見てあわれに思い」(ルカ10:33)ました。これは移住者だけのことではなく、わたしたちの人間性にかかわることです。ユダヤ人にとっては外国人であるこのサマリア人を突き動かし、立ち止まらせたのは、思いやりにほかなりません。その感情は、理性だけでは説明できません。思いやりは、わたしたち人間のもっとも繊細な琴線に触れ、苦境にある人の「隣人となる」よう駆り立てます。イエスが自ら教えておられるように(マタイ9:35-36、14:13-14、15:32-37参照)、思いやりとは、他者の苦しみに気づき、それを和らげるためにすぐに行動すること、いやし、救うことを意味します。思いやりとは、現代社会が事あるごとに抑圧するよう求めている優しさに、働き場を与えることです。「他者に対して開かれることによって、貧しくなるどころか、豊

かになるのです。なぜならそれは、人間性を高めること、すなわち、さらに大きな全体の中で働く部分として自分を認識すること、自分の人生を他者への贈り物としてとらえること、さらには自分の利益ではなく人間の善を目的とするこの助けとなるからです<sup>(5)</sup>。

「これらの小さな者を一人でも軽んじないように気をつけなさい。言っておくが、彼らの天使たちは天でいつもわたしの天の父のみ顔を仰いでいるのである」(マタイ18・10)。これは移住者だけのことでなく、だれをも疎外しないということです。現代社会はいつも、疎外された人に対して優越感を抱き、残酷です。発展途上諸国は、特権をもつ限られた市場の利益のために、最良の天然資源と人的資源を奪われ続けています。戦争は世界の限定された地域だけで起きていますが、そこで用いられる武器は、他の地域で製造され売られています。そしてそうした地域は、その紛争による難民を受け入れようとしません。代償を払わされるのはいつでも、小さくされた人、貧しい人、もつとも弱い立場にある人です。彼らは食卓につくこともできず、祝宴の「パンくず」をあてがわれるのです(ルカ16・19 - 21参照)。「『出向いて行く』教会は……、恐れることなくイニシアティブをとり、行って遠くにいる人を捜し出し、疎外されている人を招くために往来の真ん中に立つことができるのです」。<sup>(6)</sup>排他的な発展は、豊かな者をさらに豊かにし、貧しい者をさらに貧しくします。真の発展は、世界のすべての人を対象とするものであり、その全面的な成長を促し、後の世代にも配慮します。

「あなたがたの中で偉くなりたい者は、皆に仕える者になり、いちばん上になりたい者は、すべての人のしもべになりなさい」(マルコ10・43 - 44)。これは移住者だけのことでなく、後回しにされる人を最優先するということです。イエス・キリストは、世俗の論理に屈することのないよう求めています。それは、自分と仲間の利益のために他者をないがしろにすることを正当化する、まずは自分で他者はこの次という論理です。そうではなく、キリスト者の真のモットーは「後回しにされる人を最優先に」です。「個人主義的な精神は、隣人への無関心を増長させる温床です。その精神は、単なる売買の対象として他者をとらえ、その人間性に無関心になるよう仕向け、ついには人々を冷ややかな臆病者に仕立て上げます。貧しい人、疎外された人、社会の中で後回しにされる人を前にして、わたしたちもそのような思いにとらわれることがよくあるのではないのでしょうか。また、わたしたちの社会には、後回しにされる人がどれほどいることでしょうか。なかでもわたしは、移住者のことをとりわけ考えます。彼らは困難と苦しみを抱えながらも、尊厳をもって安心して暮らせる場を、時には死に物狂いで探しながら

日々を送っています」<sup>(7)</sup>。福音の論理では、後にいる者が先になるのですから、わたしたちは仕える者にならなければなりません。

「わたしが来たのは、羊がいのちを受けるため、しかも豊かに受けるためである」(ヨハネ10・10)。これは移住者だけのことでなく、一人の人間、そしてすべての人にかかわることです。イエスのこのことばには、イエスの使命の核心、すなわちすべての人が御父のみ旨に従い、いのちのたまものを豊かに受けることが示されています。あらゆる政治運動、あらゆる計画、あらゆる司牧活動は、霊的なものを含む多様な側面において、つねに人間を中心に据えなければなりません。このことは、根本的に平等であると認識されるべきであるということにおいて、すべての人に当てはまります。ですから、「進歩は単なる経済的発展に還元されるものではありません。本当の進歩とは全体的なもの、すなわち個人としての人間全体、および人類全体を進歩向上させることであるはずです」<sup>(8)</sup>。

「したがって、あなたがたはもはや、外国人でも寄留者でもなく、聖なる民に属する者、神の家族」(エフェソ2・19)です。これは移住者だけのことでなく、神と人間の国を築くということです。移住者の時代とも呼ばれる現代、大勢の罪のない人が、際限のない技術進歩と消費志向の高まりによる「重大な裏切り」の犠牲となっています<sup>(9)</sup>。そして彼らは、自分たちの期待を情け容赦なく裏切る「楽園」へと旅立ちます。彼らの存在は、時には面倒がられることすらありますが、多くの人の搾取の上に成り立つ少数の人のための発展という神話の偽りを暴く助けとなっています。「移住者と難民は、解決すべき問題をもたらすだけの存在ではなく、歓迎され、尊重され、愛されるべき兄弟姉妹であることを、わたしたち自身が認識し、他の人々にも認識してもらう必要があります。彼らは、より公正な社会、より完全な民主主義、よりまとまりのある国、より兄弟愛に満ちた世界、より開かれた福音的なキリスト教共同体を築くのを助けるために、神の摂理がわたしたちに与えた機会なのです」<sup>(10)</sup>。

親愛なる兄弟姉妹の皆さん、現代の移住現象が抱える課題への対応は、受け入れる、守る、励ます、共生するという四つの動詞にまとめることができます。しかし、これらの動詞は移住者と難民だけに当てはまるものではありません。それらは、受け入れられ、守られ、励まされ、共生することを必要としている、周縁で生活するすべての人に対する教会の使命を表しています。これらの動詞を実践するなら、わたしたちは神と人間の国の構築に貢献し、すべての人の

全人的発展を促すと同時に、国際社会が自ら掲げる持続可能な発展という目標へと近づくのを助けることができます。そうした取り組みなしには、その目標の達成は困難なはずで

です。ですから、これは移住者だけのことでありません。彼らだけでなく、わたしたちすべてに、人類家族の現在と未来にかかわることなのです。移住者、そしてとりわけもっとも弱い立場に置かれた人々は、「時のしるし」を読み解くのを助けてくれます。主は彼らを通してわたしたちに、回心して、排他主義、無関心、使い捨ての文化から解き放たれるよう呼びかけておられます。主は彼らを通してわたしたちに、キリスト者としての生き方を完全に取り戻し、神の計画によりいつそ即した世界を築くために、各自の召命に応じて貢献するよう招いておられます。

世界のすべての移住者と難民、そして彼らの旅に同伴する人々に豊かな恵みが与えられるよう、わたしは「道の聖母」であるおとめマリアの執り成しを通して、祈りのうちに願い求めます。

注記 (1)『現代世界憲章』39参照。(2)説教、サクロファーノ、2019年2月15日。(3)「世界難民移住移動者の日」ミサ説教、2018年1月14日参照。(4)「ラバト教区カリタスでのあいさつ」2019年3月30日。(5)「ヘイダール・アリエフ・モスクでのあいさつ」アゼルバイジャン、バクー、2016年10月2日。(6)使徒的勧告『福音の喜び』24。(7)「外交使節団へのあいさつ」2016年1月11日。(8)パウロ六世回勅『ポプロールム・プログレシオ』14。(9)回勅『ラウダート・シ』34参照。(10)2014年「世界難民移住移動者の日」教皇メッセージ。

## 平和旬間行事「朗読会」を開催

評議会議長



8月15日のマリアさま被昇天の祝日は、同時に終戦記念日でもあります。このタイミングにあわせ、8月になると大阪大司教区から伝えられる「平和旬間テーマ」と歩調をあわせ、各小教区では毎年独自の行事をおこなってきました。今年のテーマは「平和に寄与する人になろう」でした。

社活からの提案で、難民問題をかんがえる一助となるよう、絵本『難民になったねこ クンクーシュ』（かもがわ出版）の朗読会をミサのなかで「お知らせの」あとにひらきました。老若男女四名が分担して交代で読みあげのです。聖壇にもつけられた特設スクリーンに各ページごとに美しい絵が映しだされ、理解を助けました。

20分におよぶ朗読が終わると、参加者にはメモ用紙がくばられ簡単な「感想」を書きこんでいただきました。メモは提出後すべて聖堂のうしろに掲示し、信者同士が共有できるようにしました。約50～

60枚ほどあったようです。

経済問題に隠れ、難民問題はさいきん報道されることも少なくなりましたが、メルケル首相のリーダーシップのもと、難民たちが戦火をのがれてヨーロッパに安住の地を見つけられるようになったのは3～4年前のことでした。あのころ熱狂的とも思えた難民受け入れへの情熱は、その後EU各国の事情もあり過去の話となっています。現在では受け入れ反対、もしくは消極的政治勢力が「受け入れ派」を駆逐してしまいました。

無事に飼い主の元に戻ったクンクーシュの「冒険」を通して、ひとびとの善意によって命が救われることを実感し、戦火や飢えに苦しむ立場にある世界中のひとびとのために、自分たちにもできることがあるのではないかと、いったことを考えてもらおうとしました。

こうした狙いは、おおむねアンケートにしめされた意見に反映されていたようです。人々の善意に感動した、ほのぼのとした話でよかった、といったものが散見されました。もちろん「現実にはクンクーシュのようなハッピーエンドではあるまい。話が軽い」といった感想も見られましたが、全体として平和への思いを語ったり、戦争反対、難民への協力といった肯定的なものが多かったです。

多くの方がいっしょに働いてくださいました。ふだんは挨拶程度のつきあいしかない教会員同士が、ひとつの行事と目的に向けて協力体制を築くことができたのは成果でした。御協力いただいたみなさまに執行部として感謝しております。

## ヨハネ・ボスコ馬場世明さんが 終生誓願宣立



9月7日(土)にカトリック日生中央教会で、ヨハネ・ボスコ馬場世明(つぐあき)さんが御受難修道会への終生誓願を宣立しました。山内十束準管区長様の司式により、中村克徳神父様とノイ神父様が両脇に並ばれて、ミサと誓願式が行われました。大勢の神父様方、ご家族、信徒が見守り、祈り、祝福しました。馬場世明さんは「兄弟のように、ともに住むのは、美しく、楽しいこと」という詩編の聖句を誓願式のために選びました。

池田教会は主日のミサの共同祈願で、「馬場世明さんが御受難会会員として神に仕え、隣人愛の奉仕者として生涯を生きることができますように、私たち信徒も馬場世明さんが使命を全うできるように支えていきますように」と祈りました。

馬場世明さん、おめでとうございます。主の導きをお祈りしております。



## 大人の日曜学校だより 7月28日

「だれでも、求める者は受け、探す者は見つけ、門をたたく者には開かれる。」 ルカ 11・1-13

この日、皆の一番関心が高かったところは「人を救す」という主の祈りの中の唯一といっている「誓い」でした。

誰でも日常の中でどうしても許せないという事は沢山あると思います。ふだん聞く人の話も、聞けば聞くほど許せないというその理由や苦しみは伝わってくるものです。でも、ある一人の方から「ひとを救すとは心の扉を開くこと」という言葉を頂き、ハッと気がつきました。

人は救すことによって一つひとつ心の重い扉を開き、その時には神様の愛の光が差し込んで、暗い心の部屋を明るくしてください。また、その光に満たされることで見えなかったものが見えるようになってくる。すると、いずれもただの暗い部屋だと思っていた心の中が感謝の気持ちとともに御国そのものであったことに気付く……。

例えば、主の祈りの「御国が来る」とはそういうことなんだなとふと思いました。けれども、人を救すという扉は重たくて、なかなか心の扉というのは簡単には開きません。それでも、みことばの後半でイエス様が仰せになられた様に、求め続けていけば扉は必ず開かれると、そう思います。

そして自分を主に委ね、心から人を救す事を願い続け、ついに心の扉が開いた瞬間、心の中の部屋が明るくなり、「今ここが御国なのだ」と思える様になるのではないのでしょうか。主の祈りも「私達も人を救します」と祈る時、心の扉を開く事を想像しながら祈ってみると、求めていた様に扉は開かれ、私達の心の部屋にもきっと神様の愛の光が届くと、そう信じています。

研修委員会

### 年間カレンダーに追加された行事予定など

10月3、10、17、24、31日(木) 10:30 ~  
聖書百週間

10月11、25日(金) 14:00 ~ 16:00  
福音書を学ぶ会

10月29日(火) 9:00 ~ 樹木剪定

## 日曜学校夏キャンプ「神様に愛されて」

8月6日～7日

今年も日生中央教会と一緒にキャンプに行ってきました。暑さが日ごとに増していく中、子供たちや大人たちも体調を崩さない様に適度に休憩を入れつつの活動を計画しました。

参加者は小学生15人、中高生9人、青年4人、大人16人の計44人です。参加して下さった中村神父様、ノイ神父様、染野神父様、馬場神学生からテーマ「神さまに愛されて」についてのお話も聞くことが出来ました。祈りや信仰の体験だけではなく水遊びやうちわ作りなどの楽しい遊びもあるキャンプでした。子供たちの沢山の笑顔をいただき、あっという間の1泊2日でした。これも皆様のお祈りとご協力によるものと、心から感謝しています。ありがとうございます。

## 青年協力者からの感想

日曜学校夏キャンプ—神さまに愛されて—に参加してきました。

キャンプへの参加は二年目だったのですが、今年は4月に洗礼を受けさせていただいたので、やっと本当の意味でみなさんの仲間入りができたようで、また新たな気持ちで参加することができました。

教会のキャンプは、子供の時から自分が参加していて大きくなったらスタッフとして参加する、と

いった形が多いと思いますし、実際に今回もほとんどの人がそうだったのかもしれませんが、そんな中でついこの前教会に来た自分を仲間として加えてくださり、共に楽しい時間をすごさせてくださった皆さんのあたたかさが本当にありがたかったです。

また去年にも増して、日曜学校等で仲良くなれた子どもたちと一緒にたくさん遊べたことは僕の今年の夏の大切な思い出になりました。

一方でまだまだ十分に貢献できていない部分が多々あったため、来年は今年より少しでも多く、お力になれる部分を増やせればなど思っております。一年に一度の行事ではありますが、関わってこれたみなさんのお力で長い間続けられているこの大切な時間をさらにつないでゆき、また自分もその一端を担うことができるように努めたいと思います。

(R.M.)

2日間子供達の笑顔がたくさん見る事が出来とても幸せでした。多くの教会では子供が集まらないためキャンプはおろか日曜学校が成立してないに耳にしますが、池田教会はたくさんの子供達がいる日曜学校の行事が盛んに行われてとても素晴らしいと思います。今、参加している子供達がこれからも教会を離れず、若い力となって教会を盛り立ていく仲間となれることを心から願います。(R.S.)

## ドレミの会 夏のバーベキュー 8月10日

「え！この暑いのにバーベキューに行くの？」聞く人は誰も、びっくりしたような顔をします。この猛暑にハンディーを持った子たちとバーベキューに行ったら大丈夫かと、心配してくださっているのです。

当日、参加者は喜々として集まってきました。ノイ神父様もお忙しいのに時間を作って参加してくださいました。総勢40名、バスと車二台に分乗して出発です。20年以上も使っている能勢の山奥の「ダイヘン愛の郷」は深い森の中のように、とても涼しく、トイレも台所もすっかりきれいになって、みんなおよろこびでした！

四ヶ所に分かれ、祈りとともに乾杯！おいしい

肉や野菜を、ぱくぱく！セミの鳴き声をバック音楽にして、ビール片手に皆ご機嫌です。すっかり満たされた後は、ゲーム・スイカわり～

ファイナーレは、今日一日が無事に終わったことに、みんなの協力で、この自然豊かな能勢の山々に感謝を込めて、ノイ神父様があたたかなやわらかい美しい声で、賛美の歌を英語で歌ってくださいました。その歌声は深い木々の間に吸い込まれるように響いていきました。見ると、ハンディーを持った子も、保護者も最後に十字を切り「アーメン」と唱えていました。神に感謝！

ドレミの会



## 敬老の集いで元気な顔が揃いました

9月15日の主日のミサ後、カール記念館で敬老の集いが催されました。75歳以上といちおう限定された高齢者が三十数人集まり、聖歌を歌い、本田実千代さんの「アメイジング・グレイス」に聞きほれたあと、ノイ神父様からお祝いの言葉を頂き、ノイ神父様とともに祈りました。川西地区の皆様の手作りのカレーと抹茶味のゼリー、コーヒーが供され、楽しい食事会となりました。そのあとの自己紹介では笑いが起き、懐かしい歌や聖歌をたくさん歌って元気になり、最後にノイ神父様から祝福を受けました。帰り際にはソバボウロのお土産まで用意されていました。来年も神様のお恵みを得て、一同がつつがなく集えますように。



### 支援先紹介 (その5) ハイチ友の会

1995年当時学生だった中心のメンバー二人が海外のボランティア活動としてハイチを訪問したことが切っ掛けでハイチ友の会を創設。最貧国でも強く生きるハイチの人々の姿に心打たれ支援活動を行っている。

代表者は医師であり、毎年、ハイチを訪問。主な活動内容は、保険医療支援事業、教育環境整備事業、農村開発事業である。無料結核検診や奨学金、農作物の栽培や加工など幅広く

活動されている。

社会活動委員会

10月のガラスケースのことは

あなたの信仰があなたを救った

ルカ 17・19

みんなの談話室 (四編の投稿)

辻 輝子さんの笑顔



K.S.

この数年間辻さんと一緒に活動することが多くなって彼女に強く惹かれるようになりました。最初は教会OBの飲み会に誘ってもらったことでした。一緒に飲んで楽しい人だと思いました。その後、社会活動委員会の中での率直

な発言に感心したり、東北物産販売で売り手としても買い手としても活躍していただき、サイコロの会でも中心メンバーになってくださいました。丁寧で誠実な仕事でとても信頼でき、ますます尊敬するようになりました。

辻さんはいつもオシャレで笑顔いっぱいでした。大判のステキな日傘を褒めた時、毎年ちゃんと洗ってしまっていると当たり前のように言われ、そん

なに丁寧なことをしていない私はドキッとしました。大事なものは大切に扱う……それは全てにおいて辻さんの姿勢なのだとわかりました。

辻さんの教会生活も喜びに満ちたものだったと私には思われます。ミサに毎日あずかり元気をもらい、教会内外の勉強会に積極的に楽しく参加し、地区の活動も委員会の活動もサイコロの会も協力を惜しまれませんでした。苦しいこともあったのでしょうがそれについてこんな事を言われてました。「少し苦しんだ方がいいと思う。償いになるから」苦しみでさえよろこんでおられたのかもしれませんが。あの笑顔は幸せの笑顔、自分が幸せで、それを人と分かち合う笑顔だったとつくづく思います。「カール神父様にはひたすら可愛がってもらった」と言っておられたけど、神様にもひたすら可愛がってもらってると信頼されてたのが感じられました。一緒にいると私にもそのおこぼれが回ってくるような幸せ感がありました。

辻さんが目の前には居なくなったのだけど、今も笑顔を感じています。神様の愛に信頼して私も同じような笑顔で暮らすのを目標にしようと思います。

マリア・マグダレナ辻 輝子さんを偲んで

北村

「私一寸変なの。昨日の朝ミサに来たかな? ……記憶にないの」と辻さん。「えーっ? もちろんよ!! 毎朝来ているじゃない!!」と仲さんと私。

それが辻さんと交わした最後の言葉になりました。八月六日の朝ミサが終わってすぐのことでした。「おかしいなあ、辻さん、熱中症で思考力が落ちたのかなあ」と思いつつ、とにかく帰ったら眠るよにと皆で勧めて別れました。翌日の朝ミサに来た辻さんを目撃して、顔色が悪く様子もおかしいと思い、ミサの間中彼女の様子を気にかけていました。仲さんも同様でした。仲さんは、その前日も異変を感じておられたとか……

とにかく、今までに一度もなかった事ですが、ミサの初めから最後まで彼女は大きく舟を漕いでいました。ミサが終わってすぐに、私は神父様方にその旨を伝えました。昼間はきつと横になっているだろうと、夜電話を入れて安否を確認しようと思いました。夜七時半頃電話をしましたが、応答はなく留守電を入れました。その日の内に彼女からの電話

はなく、ふと嫌な予感がしました。今まで、そんな事がなかったからです。

翌朝のごミサに彼女の姿はありませんでした。神父様方と「心配が的中したのか……」と話しました。その日、私は仕事で池田駅のゲスト・インフォメーションにいました。お昼頃仲さんから電話が入り、辻さんが亡くなった旨を告げられました。しかも浴室で…「えーっ、まさか !!」 全身鳥肌が立っていました。全く信じられませんでした。どうして…辻さん～?

生前「北村さん、長生きしようね。だって死んだら、もう神様を賛美することが出来ないもの」と言っていた辻さん。

「あなた方も用意していなさい。人の子は思いがけない時に来るからである」 ルカ 12:40

この聖書の言葉通り、辻さんはその日のために日々立派に準備しておられました。しかも心の底からの賛美と喜びを持って。彼女は、ご自分の信仰を立派に生き抜かれたと思います。その意味で私は彼女に「あつぱれ、辻さん!!」と思わず心の中で叫びました。

彼女はマリアの心とマルタの行動力の両方を



持っておられました。毎日のごミサと月一のベネディクションでは深い祈りと賛美、また社会活動や受付の当番、サイコロの会でのお世話。そして何よりも聖書の勉強には熱心で、中村神父様の「福音書を学ぶ会」、京都で開催されている聖書の勉強会、それに9月からは梅田教会で行われる勉強会にも参加される予定でした。私は勉強不足で、分からない事はよく辻さんに教えてもらいました。

生涯独身で過ごされた辻さん。池田教会でデニス神父様からの最初の洗礼を受けられた3人の内のお一人でした。

私が彼女と毎日一緒にいて特に印象深かったのは《輝くような微笑み》です。特に毎朝のごミサが終わった後の彼女の輝きは素晴らしいと思いました。輝子さんのお名前の通り。私は、度々彼女に「今日も輝いているわねえ!」と告げると「そう〜!」と嬉しそうなお返事が返って来ました。それは、毎日いただくご聖体とおん血のお蔭以外の何物でもないでしょう。池田教会では平日のごミサ時にご聖体だけでなく、イエス様のわき腹から流れたおん血も拝領することが出来るのです。これはデニス神父様のお蔭だと島神父様から伺いました。

今は修道院でもおん血の拝領は出来ないようで、シスターの方に羨ましがられることさえあるほどです。聖変化時、神父様のご聖体の一部を一寸

割っておん血の中に入れられる時に、それは《復活されたキリストの完全なおん体》となります。私達はそれをいただく事が出来るのです。この計り知れないお恵みと喜びを辻さんは毎日味わっておられました。彼女の微笑みは、神様が共にいてくださるという喜びの印でした。

辻さんのいなくなった毎日、特に毎朝のごミサは寂し過ぎます。何だか大切な・忘れ物をしたみたい。彼女のあの温かい笑顔、素晴らしい朗読、息使いや気配が、もう感じられないなんて……今は三人になってしまいました。(大山さんが入院中のため)でも命を召される直前まで、喜びの内にごミサに与り、ご聖体を拝領された辻さん。七月二十二日、霊名の聖マグダラのマリアの記念日が今年から祝日となった(本年6/3付け、教皇庁)と喜んでいた辻さん。今は至福の内に、先に逝かれた神父様方や先輩方との喜びの内に集いの中にいらっしゃる事と思います。あまりにもあつけなく逝ってしまった彼女に、私はお礼の一つも言う事が出来ませんでした。私は、毎日のごミサに与るようになってたつた2年。それでも、毎日主の食卓を囲み、同じ食事をする私達は家族同然でした。信仰の喜びを与え、姉のように優しく又時には厳しく私を導いてくださり、本当に有難うございました。

又会う日まで、合掌

## 天国を目指す一番星、辻輝子さんを悼む

大山

辻さんと懇意になったのは、毎朝のミサに与るようになってからです。

私は、先に朝ミサに与っていたのですが、ある時期、出席者が少なくなり、数ヶ月の間、島基幸神父様と二人だけになりました。そんな時に辻さんが参加されるようになったのです。

ミサ前の20分間、「教会の祈り」をお祈りする習慣でした。辻さんはそれが終わる頃、7時前に小聖堂に入ってこられました。そのうち自分も、「教会の祈り」を共にしたいと望まれました。

辻さんは若い頃、二、三の知り合いと共に、毎朝ミサに来られたそうです。その習慣がよみがえったとか。以降、極めて勤勉に参加され、辻さんが欠席された記憶は、私にはありません。

初めて朝ミサに参加する時の第一の関門は、

冬の寒さに耐えることです。寒風吹きすさぶ中を、鼻水を拭きつつ教会にたどり着きます。小聖堂のエアコンの暖かさを感じると、ホッと一息。これを一冬続ければ、かなり忍耐力がつかます。後は、慣れのカで朝ミサ通いが継続出来そうです。辻さんは、この試練を見事乗り越えました

それだけではありません。御受難会黙想会などで、池田でミサがない時は、私と二人で売布の女子修道院や豊中教会に出かけたことがしばしば。

亡くなられる前には、グループは五人になっていました。他の参加者は、しばしば欠席されたのを覚えています。たとえば私は、がんの手術で一年半以上も休みました。

そのうちに、私たちは「同病相憐れむ」仲になりました。辻さんが亡くなられた当日、私は池田病院で五回目のがん手術を受けていました。「これ以上は手術でけへんで」と主治医に言われながらも、なんとか生き延びました。家内がその旨、

辻さんに連絡、皆さんに連絡してくれるように頼みました。その日の夜、帰天されたのです。「寿命と病気は必ずしも関係のあるものではない。神様のなさり方は、私たちには想像も出来ない」と痛感しました

それまでにも辻さん自身、体の二、三カ所でがんを患い、放射線治療などで通院。また妹さんもがんを患って、必死に看病されたそうです。ご母堂の入院とも重なったので、お二人の通院のために、車の免許を取得。お二人が亡くなられた際、車を放棄されました。特に妹さんが亡くなられた時は、誠に残念そうな口ぶりでした。

辻さんは、後期高齢期の女性には珍しく「百葉の長」を、ほどほどに嗜まれました。私も飲んべえでしたが、残念ながら実際に酌み交わしたことは皆無。でも何度も話題にして、ともに左党を擁護しました。辻さんは、根っからの池田生まれ池田育ちで、地場産の銘酒「呉春」を愛飲。池田には入り人だった私は、価格の関係で追随は出来ませんでした。

世の中には、酒を嗜むと言うだけで、蛇蝎のごとく嫌う人種がおるようです。私の家内もそうです。でも考え直していただきたいものです。「酒を飲まない男は、どこか頼りない」というのは、辻さんの言葉です。

## 南アフリカより

久保 昌子

8月10日から18日まで、南アフリカのエイズホスピス、セント・フランシス・ケアセンターへ行ってきました。2年前に送ったのに住所変更があって送り返されてきたクリスマスカードを携えての旅でした。

セント・フランシスの子どもたちは、カードのイラストに目を輝かせ、スタッフのところへ行ったら「なんて書いてあるの?」と尋ねていて、皆さんの、南アフリカの子どもたちの健康と幸せを祈る気持ちがちゃんと届いている!と、幸せな気持ちになりました。たくさんカードがあったおかげで、成人の患者さんにも渡すことができました。一人一人の部屋を訪ね、日本から皆さんの健康と幸せを祈っていると伝えると、どの方も大変喜んでくれました。

その中に、大変具合の悪い方がいて、話しかけてももう返事ができなかつたのですが、私はその方の枕元にカードを置き、「日本からみんなであなたが神とともにいられるよう祈っていますよ」と伝えて

キリスト様をご自分の御血の質量として、ぶどう酒を選ばれたのは、何か深い意味があると思います。事実、辻さんと私は毎朝、共に御血を頂いていたので、この世のアルコールを必要としなかつたのかも知れません。

さて辻さんが「教会の祈り」に参加された時のことです。「教会の祈り」を続けるには、同名の書籍が必要で、定価五千二百円＋消費税。かなり高価でした。インターネットで送料無料を取り寄せることが出来ましたので、私が辻さんのもとに届くよう、手配しました。

亡くなられた後、朝ミサに出席すると、いつも定位置に座っておられた辻さんがご不在。心にポカッと穴が開いたような寂しさを感じました。

私は、ご遺族にお願いして、この本を教会に寄贈して頂くように頼みました。快く承諾してくださいましたので、小聖堂の後ろ側の物入れに置いています。朝ミサにいられて、「教会の祈り」が始まっていたら、この本を利用して参加してください。

辻さんと私たちは、ともに天国を目指す巡礼仲間でした。彼女は、怠りなく朝ミサに通い、死する日の朝も御聖体を拝領されました。共に天国を目指す私たちの一番星となりました。後に続く私たちも、油断することなく信心に励み、後を追うことが出来ますように。辻さんのお取り次ぎを切に願っています。



枕元で一緒にお祈りをしました。

翌日、その方は亡くなられました。前日も来られていた義理の娘さんを見かけた私が声をかけると、彼女は泣きながら「祈りのカードをありがとう。枕元にありました。」と言われたのです。私はその方と抱き合いながら、彼が祈りとともに天国へ行ったと思うことができました。皆さんの祈りの力をひしひしと感じた出来事でした。

学齢に達した子どもたちの暮らすアップワース・チルドレンズビレッジの子どもたちの中には、もう思春

期に入った子もいます。彼らが生きて成長し、成人を迎えようとしていることは、とても大きな希望であり喜びです。しかし、身元を引き受けてくれる人が見つからなくても、彼らは年齢に達すればたった一人で社会に出て行かなくてはならないのです。情緒的に不安定になり、トラブルを起こしてしまう子も少なくないようです。その子どもたちにとって、こうして遠い日本から「あなたのために祈っている」というメッセージを届け続けることが、「一人じゃない」と、心を安らげるものとなるようお願いながら、一人一人にカードを手渡してきました。



子どもたちも思い思いに  
お礼のことも書きこみ  
ました。聖堂の東壁に掲  
示しています。

皆様に呼びかけた募金は、84,710円集まりました。温かいご支援、本当にありがとうございました。セント・フランシス・ケアセンターのスタッフに、今子供たちにとって一番必要度の高いことに使ってほしいと伝えたと、子どもたちの発達に必要な教育玩具(すべり台、プール、くぐり遊具、セラピー用の砂)及びセント・フランシス・ケアセンターから巣立つ卒業式用の衣装(今までは借りていたもの)の購入に使いたい、とのことでした。どれも子どもたちの成長にとって大変重要なものであり、心からの感謝を伝えてください、とお礼状もいただきました。下にその訳文を載せています。

卒業式の衣装には「池田教会より」と刺しゅうを入れてもらい、遊具にも教会の銘を入れて、使う、とのことでした。これからは、セント・フランシスの子ど

もたちは毎年、池田教会の名のついた衣装を身に着けて儀式に臨み、巣立っていくことになるのです。

多大なるご支援に心より感謝しております。これからも、南アフリカの子どもたちのためにお祈りくださるようお願いいたします。 8月19日

池田教会の皆様

皆様から10,996ランド40セントのご寄付を受け取りました。心からの感謝を申し上げます。大変ありがたく、皆様の愛と心づかいを本当にありがたく思っております。

皆様のご寄付を、教育玩具及び子どもたちの卒業時のガウンの購入に使わせていただきます。毎年借りるしかなかったのですが、皆様のサポートのおかげで、この施設で使うものを作り、この先長きにわたって使っていくことができます。購入させていただく品物には教会の銘を入れる予定です。すべての品物が揃いましたら購入したものの写真を撮り、送らせていただきます。

皆様のご支援、本当にありがたく思っています。私たちは、このセンターに暮らす子どもたちのよりよい明日のために懸命に働いています。しかし、この働きは、まさに皆様のような心ある方々の支えによってなされているのです。

子どもたちの未来は私たちの働きによっており、その責任は私たちの肩にかかっております。皆様が、私たちの「静かなるパートナー」となって下さり、祈りによって支えてくださっていることに心からの感謝を申し上げます。皆様に、神様の祝福が、豊かに注がれますように。

感謝を込めて

セント・フランシス・ケアセンター

マネジャー ティリー・ブラウアー

## スマイル

笑って たとえ君の心が痛んでも  
笑って たとえその心が砕けそうでも  
雲が空に浮かんでいれば  
きっと 何とかなる

その微笑みが  
不安と悲しみの中からのものでも  
笑えば たぶん明日には  
見えるだろう 太陽が輝き 君を照らし出すのを  
晴れやかになる 君の顔は 歓びとともに  
隠される 全ての痕跡は 悲しみの

たとえ涙が すぐに溢れてしまいそうでも

その時は  
君は続けるんだ努力を  
笑うために涙は何の役にも立たない  
わかるはずだ人生には まだ価値があると

もし君が 笑えたなら

チャプリン映画「モダンタイムス」の主題曲、Smile、はナット・キング・コールが歌って、大ヒットした。サイコロの会(9/19)でノイ神父が辻輝子さんを偲ぶ歌(英語の歌詞)に相応しいと歌われた。

## 表紙の写真について

10月はロザリオの月。表紙の写真は池田教会聖堂のマリア像です。10月のマリア様は花冠で飾られ、大きなロザリオを両手にかけておられます。今月はいつにもまして、ロザリオの祈りを唱えましょう。細っそりと優美なマリア像は欠畑美奈子氏の制作によるものです。

## 広報委員会からのお知らせ

・「からしだね」への原稿提出先のメール・アドレスを下記のように変更しました。

karashidane@catholic-ikeda.sakura.ne.jp

なお、原稿締切日は変更されず、毎月第3日曜日のままです。

・WebサイトのURLも下記のように変更しました。

<http://catholic-ikeda.sakura.ne.jp/church/index.htm>

## 映画「マリア」の鑑賞会

聖母マリアを主題とする、3回の北摂地区連続信仰講座を始めるにあたり、その準備として、8月25日の主日のミサ後、アメリカ映画「マリア」の上映会がカール記念館一階ホールでおこなわれました。映画は当時のナザレ地方の厳しい暮らしをよく再現していました。石造りの家が並ぶ狭い路地、オリーブの木立、たけだけしいヘロデ王の兵士、税金を取りたてられる貧しい村人たち。

物語はマリアが親の取り決めによりヨセフのいいなづけとなったときから始まります。天使による処女懐胎の知らせ、それに伴うヨセフの苦悩と受容と愛情が語られ、マリアのエリザベト訪問、戸籍調査のためにベトレヘムへの旅へと物語は続き、イエスのご降誕というクライマックスを経て、エジプトへ苦難の旅を続ける聖家族の映像で映画は終わります。

普通の少女だったマリアが神に選ばれたこと、ヨセフに守られて、厳しい状況の中で使命を立派に果たしたことをしみじみと感じさせられる映画でした。数十人の信徒たちがそれぞれの感慨を抱きつつ、聖母マリアへいつそうの親しみを覚えました。

## 宝塚黙想の家から黙想会のお知らせ

### ■ 日帰り黙想会

10月24日(木) 10:00 ~ 15:30

指導: 染野治雄 神父

10月25日(金) 10:00 ~ 15:30

指導: 染野治雄 神父

### ■ 週末黙想会

10月はありません。



各黙想会、費用等のお問い合わせは「宝塚黙想の家」まで。 ☎0797(84)3111

## 編集後記

毎年、「からしだね」10月号は夏の行事で、記事が盛り沢山だ。

“平和旬間の催し”においては席を立つことなく、ミサ中に行われ全員参加できた気がする。又、絵本朗読者の一人であった辻さんが、その後急逝されたと一報が伝わった時、驚きをおぼやけなかった。マイクを通じてしっかりと語りかけて下さった辻さん、ご冥福をお祈りします。

天使の微笑